

あかうお
紅魚

わたくしの胎は、ゆっくりゆっくり晴れ上がり、
幾つものまあるい月をその子袋に詰め込み
意味もなく、隠し事とてないのに
見透かされ
葉状体をゆっくりゆっくり太らせ、腫上がり、
自家生殖の果てに、子らの終抹を
意味もなく
彼らの川辺に撒き散らす、ただそれのみで
硬化し、未熟な幼体の肉を包み込んだまま、
原初の卵に戻っていくのでした。

「ただ向こう岸で歌うだけなら、その紅く染まった鰓を返してくれ、私に返してくれ。」

わたくしの指先は、ゆっくりゆっくり晴れわたり、
胞状の、紫の、小さな小さな、水たまりを幾つも幾つも
骨片を隠し持つ、秘密を宿し、
公然と
精虫と微細な卵を刹那の間に間に撒き散らし、収縮し、
集団結婚の宴の後に、彼らのしとねの
意味もなく
我らの巣に繁茂し、ただ繁茂し、湿り気を確保し
形を失い、腹にしわをよらせ、ただ相づちを打ち、
からからと転がるしゃれこうべに乾ききっていくのでした。

「ただ向こう岸で歌うだけなら、その紅く染まった鰓を返してくれ、私に返してくれ。」